

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370888

研究課題名(和文)古墳時代における海浜部墳墓の考古学・人類学的研究

研究課題名(英文)An archeological and anthropological study of the graves around seashore in the Kofun period

研究代表者

清家 章 (Seike, Akira)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授

研究者番号：40303995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：磯間岩陰遺跡出土資料に軸足を置いて研究を遂行した。その結果、副葬品・人骨の炭素窒素同位体分析から確実にこの集団は漁撈集団であることが判明している。また、歯冠計測値法による被葬者間の親族関係分析によると、すくなくとも小石室間の被葬者に親族関係がないことが明らかとなっており、本遺跡は集落形成期に複数の親族集団が共同で営んだ墳墓遺跡ではないかと考えられた。特筆すべきは副葬品であり、鹿角製剣装具は直弧文が刻まれている。この剣装具は畿内政権の関与無しにありえない。このことから紀南という畿内政権から遠い漁業集落の再編にも畿内政権の関与が推測されるのである。

研究成果の概要(英文)：We studied and analyzed Isomaiwakage Site. It became clear that people buried in Isomaiwakage Site were fishermen by the isotopic analysis and funeral goods. And it also became clear that some people in some coffins were not relatives each other. I pointed out that a few families which were not relatives each other gathered and made a new settlement. Some decorative accessories for swords, made of deer antler, found in Isomaiwakage Site are famous. We thought that they were presented by the Yamato polity. So, we conclude that this settlement was made under the help of the Yamato Administration.

研究分野：考古学

キーワード：古墳時代 岩陰遺跡 海浜部墳墓 骨角器

1. 研究開始当初の背景

畿内政権の支配体制研究は、支配しあるいは支配される集団が、水稻耕作を基盤とした農耕集団であることを前提として進められてきた。しかしながら、古墳社会は農耕集団だけでなく多様な生業集団から構成されている。

漁業や製塩など海を生業基盤とする集団(以下、漁労製塩集団と呼ぶことがある)に関する研究はこれまでも存在した。これまでの研究では、そうした集団の特異性が指摘されるにとどまり、古墳社会全体あるいは地域社会の中での評価はされないままであった。さらに漁労製塩集団の広域比較という視点を欠いた中での研究が多かった。古墳時代における多彩な地域間関係の存在が近年明らかにされている中、漁労製塩集団も地域社会あるいは畿内政権と多様な関係を形作っている可能性がある。

さらに、これまでの漁労製塩集団研究では、被葬者の生業の特定方法に問題があった。喜平島のように製塩に特化した孤島ならともかく、海浜部における墳墓の被葬者すべてが、海に生業基盤を置いているとは限らない。それにもかかわらず、被葬者の生業を特定する根拠と方法論が議論されることはなかった。海浜部や製塩遺跡の近くにある墳墓を漁労集団や製塩集団の埋葬として理解しているに過ぎなかったのである。この点は研究の前提であるので決して小さな問題ではない。生業の特定には、立地や副葬品のみならず人骨・動物骨などの自然遺物を含めた総合的分析が不可欠である。海浜部の墳墓はその立地や埋葬形態が自然遺物の保存に適しており、自然遺物が遺存するケースが多い。これまでは豊富な自然遺物を研究に有効利用できていなかったのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、海浜部にある古墳時代墳墓について考古学・人類学・環境考古学という多面的アプローチから分析を行うことによって、海に生業基盤を持つ集団の墳墓を特定し、その集団の古墳時代における社会的位置付けを示すことである。社会的位置付けの具体相とは、海を生業基盤とする集団と畿内政権・地方首長勢力との関係、あるいは農耕集団との関係である。それを明らかにすることにより海浜部に対する畿内政権の支配体制とその構造、ならびにそれが確立する過程を解明し、これまで農耕集団の支配を前提としてきた政権構造の見直しを進める。

3. 研究の方法

(1)海浜部における墳墓被葬者の生業の特定

海浜部における墳墓被葬者の生業を、考古学・人類学・環境考古学の3分野から多角的な分析を行うことによって特定し、漁労製塩集団の墳墓を抽出する。抽出した漁労製塩集団の墳墓と平野部における農耕集団の墳墓

と比較し、漁労製塩集団の埋葬における特徴を明らかにする。

(2)漁労製塩集団の墳墓の類型化

上記(1)で明らかにした漁労製塩集団の墳墓の特徴を使用しつつ、埋葬形態(墳丘の構造・埋葬施設の種類と規模・副葬品・被葬者の親族関係など)から漁労製塩集団の墳墓の類型化を行って研究の基礎を形作る。

(3)漁労製塩集団の地域社会における社会的位置と関係の研究

漁労製塩集団の墳墓と他の墳墓との関連性を考察し、地域内での階層的な位置づけならびに他集団との交流関係を明らかにしつつ、地方首長勢力との関係を追求する。

(4)畿内政権による漁労製塩集団の掌握過程の研究

漁労製塩集団墓制の諸類型における葬送儀礼のあり方や副葬品とくに威信財のあり方から、畿内政権との交流についてその有無を含めて検討を行う。畿内政権が漁労製塩集団に対して、いつどのような過程を経て、その関与を強化するのかを明らかにする。さらに漁労製塩集団の墳墓を広域間で比較することにより、畿内政権による漁労製塩集団に対する多様な掌握過程が存在することを明らかにする。

4. 研究成果

研究を実施する中で、和歌山県田辺市磯間岩陰遺跡の資料が本研究の重要な鍵となることが次第に明確となった。海浜部岩陰遺跡という立地、未盗掘の埋葬施設と遺存状況の良い複数の人骨、動物骨。あるいは多数の骨角器をはじめとする副葬品があるからである。そのため、本研究の軸足を磯間岩陰遺跡出土資料に置いて研究を遂行した。

その結果、副葬品・人骨の炭素素同位体分析から確実にこの集団は漁労集団であることが判明している。また、歯冠計測値法による被葬者間の親族関係分析によると、すくなくとも小石室間の被葬者に親族関係がないことが明らかとなっており、本遺跡は集落形成期に複数の親族集団が共同で営んだ墳墓遺跡ではないかと考えられた。同遺跡は5世紀後半に成立するが、全国的に同時期に集落の再編が認められる。本遺跡を営んだ集団も、こうした集落再編の動向の中で新たに集落を形成したと推定される。

特筆すべきは副葬品であり、鹿角製剣装具は直弧文が刻まれている。この剣装具は畿内政権の関与無しにありえない。このことから紀南という畿内政権から遠い漁業集落の再編にも畿内政権の関与が推測されるのである。

磯間岩陰遺跡の資料が膨大で分析と研究に主力を注いだため、1と2に挙げた広域比較研究はできなかったが、5世紀後半の漁業集団に畿内政権が関与したことを明らかにした成果はきわめて大きい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

1. 清家章「古墳時代中期後葉・後期の親族構造再論」『史林』第 99 巻第 1 号 史学研究会、pp.81-100 (査読有) 2016 年
2. 蔦谷匠・米田穰「子供の骨から離乳年齢を探る」『考古学ジャーナル』671 号 pp.20-23(査読無)2015 年
3. 安部みき子、長岡朋人 「千提寺 - 跡出土の人骨」『茨木市千提寺西遺跡 日奈戸遺跡 千提寺市阪遺跡 千提寺クルス山遺跡』公益財団法人 大阪府文化財センター調査報告書 256 : 472-475 (査読無) 2015 年
4. 安部みき子「東海市東畑遺跡出土の埋葬馬の分析」『畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告書』東海市教育委員会 pp.78-93(査読無) 2015 年
5. Tsutaya, T., A. Shimomi, T. Nagaoka, J. Sawada, K. Hirata, and M. Yoneda (2015). Infant feeding practice in medieval Japan: carbon and nitrogen stable isotope analysis of human skeletons from Yuigahama-minami. *American Journal of Physical Anthropology* 156, 241-251. DOI: 10.1002/ajpa.22643. (2015/2) (査読有)
6. Tsutaya, T. and M. Yoneda (2015). Reconstruction of breastfeeding and weaning practices using stable isotope and trace element analyses: a review. *Yearbook of Physical Anthropology* 156, 2-21. (査読有)
7. 日下宗一郎・佐宗亜衣子・米田穰 (2015). 縄文時代の國府・伊川津遺跡から出土した人骨の放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体分析. *Anthropological Science (Japanese Series)* 123(1), 31-40. DOI: 10.1537/asj.150414. (査読有)
8. Eda, M., Y. Kodama, E. Ishimaru and M. Yoneda (2014). Lead concentration in archaeological animal remains from the Edo period, Japan: Is the lead concentration in archaeological goose bone a reliable indicator of domestic birds? *International Journal of Osteoarchaeology* 24, 265-271. DOI: 10.1002/oa.2369. (査読有)
9. Itahashi, Y., Y. Chikaraishi, N. Ohkouchi, and M. Yoneda (2014). Refinement of reconstructed ancient food webs based on the nitrogen isotopic compositions of amino acids from bone collagen: A case study of archaeological herbivores from Tell Ain el-Kerkh, Syria. *Geochemical Journal* 48, e15-e19. DOI: 10.1002/geochemj.2.0318. (査読有)
10. Tsutaya, T., Y.I. Naito, H. Ishida, M. Yoneda (2014). Carbon, nitrogen, and

sulfur isotope analyses on human and dog diet in the Okhotsk culture: perspectives from the Moyoro, Japan. *Anthropological Science* 122(2), 89-99. DOI: 10.1537/ase.140604. (査読有)

11. Wataru Morita, Wataru Yano, Tomohito Nagaoka, Mikiko Abe, Hayato Ohshima, Masato Nakatsukasa Patterns of morphological variation in enamel-dentin junction and outer enamel surface of human molars *Journal of Anatomy*(査読有) 2014 年 online DOI:10.1111/joa.12180
12. 清家章「中小古墳の被葬者像」『人々の暮らしと社会』古墳時代の考古学第 6 巻 pp.11-22 (査読無) 2013 年
13. 清家章「和歌山県磯間岩陰遺跡における被葬者の親族関係と抜歯」『私の考古学』丹羽佑一先生退任記念事業会 pp.261-269 (査読無) 2013 年

[学会発表](計 5 件)

1. 清家 章「弥生時代後期から終末期の女性首長の動向」考古学研究会岡山例会 2015 年度第 1 回
日時 2015 年 5 月 9 日(土)
 2. 清家 章「弥生時代から古墳時代の女性首長」女性史総合研究会 11 月例会
日時 2015 年 11 月 21 日
 3. Akira Seike Mounded Tomb Building in the Kofun period - Landscape and its Transformation
日程: 4-6th November 2015
[図書](計 1 件)
清家章『卑弥呼と女性首長』学生社 総 237 頁 2015 年
[産業財産権]
出願状況(計 0 件)
取得状況(計 0 件)
- [その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清家 章 (SEIKE, Akira)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号: 40303995

(2) 研究分担者

米田 穰 (YONEDA, Minoru)
東京大学・総合研究博物館・教授
研究者番号: 30280712

安部みき子 (ABE, Mikiko)
大阪市立大学・医学(系)研究科(研究院)・助教

研究者番号：80212554

(3)研究協力者

杉井健 (Sugii, Ken)
熊本大学・文学部・准教授
研究者番号：90263178

鈴木一有 (Suzuki, Kazunao)
浜松市教育委員会
研究者番号：なし

菊地芳朗 (Kikuti, Yoshio)
福島大学行政政策学類
教授
研究者番号：10375347